

# 福島第一原子力発電所の状況

2017年6月12日  
東京電力ホールディングス株式会社

## <1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (6/12 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	給水系：約 1.4 m <sup>3</sup> /h	21.4	1.06 kPa g	A系： 0.00 vol%
		炉心スプレイ系：約 1.4 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	給水系：約 1.5 m <sup>3</sup> /h	27.1	4.96 kPa g	A系： 0.05 vol%
		炉心スプレイ系：約 1.3 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.04 vol%
3号機	淡水 注入中	給水系：約 1.5 m <sup>3</sup> /h	24.6	0.27 kPa g	A系： 0.03 vol%
		炉心スプレイ系：約 1.4 m <sup>3</sup> /h			B系： 0.03 vol%

### 【1号機】

・2017/6/6～ 原子炉压力容器および原子炉格納容器内の不活性化のため、原子炉压力容器ヘッドスプレイラインから窒素封入を実施しているが、窒素封入ラインの信頼性向上を目的として設置したジェットポンプ計装ラインを用いた窒素封入試験を開始。2017/7 下旬頃まで試験実施予定。

## <2. 使用済燃料プール(SFP)の状況> (6/12 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	SFP 水温度
1号機	循環冷却システム	停止中	25.1 °C <sup>*1</sup>
2号機	循環冷却システム	運転中	26.1 °C
3号機	循環冷却システム	停止中	26.1 °C <sup>*2</sup>
4号機	循環冷却システム	運転中	22.7 °C

※ 各号機 SFP および原子炉ウェルヘッドラジンの注入を適宜実施。

\*1 循環冷却系一次系停止中のため、SFP 水温度に関しては 5/29 11:00 現在のデータを記載。

\*2 循環冷却系一次系停止中のため、SFP 水温度に関しては 6/12 5:00 現在のデータを記載。

### 【1号機】

・2017/5/29 使用済燃料プール(SFP)循環冷却系の一次系については、設備信頼性向上を目的とした当該系統の電源二重化作業を行うため、停止(停止期間 5/29～6/13)。停止期間中のSFP水温度上昇は、約 19°C(温度上昇率:0.052°C/hと評価)。

### 【2号機】

・2号機および3号機SFP循環冷却一次系の設備信頼度向上対策工事の関連作業に伴い、1～3号機SFP循環冷却系の共用二次系を停止することから、SFPの冷却を停止する予定。

停止期間:6/13 6:00～13:00(約7時間)。

6/12 14:00 現在のSFP水温度は、26.0°C。

停止期間中のSFP水温度上昇は、1°C未満(温度上昇率:0.120°C/hと評価)。

なお、1号機および3号機については、SFPの冷却を停止中。

### 【3号機】

・現在運転中の使用済燃料プール(SFP)循環冷却系の一次系については、当該系統の計装品点検を行うため 6/12 5:43 停止。停止状態に異常のないことを確認。冷却停止時のSFP水温度は 26.1°C。

停止期間:6/12 ～ 6/16。停止期間中のSFP水温度上昇は、約 10°C(温度上昇率:0.090°C/hと評価)。

## <3. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (6/12 11:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種 除去設備 (ALPS)	増設多核種 除去設備	高性能多 核種 除去設備
運転 状況	停止中 <sup>*1</sup>	運転中 <sup>*1</sup>	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	ホット 試験中 <sup>*2</sup>	ホット 試験中 <sup>*2</sup>	ホット 試験中 <sup>*2</sup>

\*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。 \*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

- ・2017/6/12 10:18に増設多核種除去設備C系においてサンプリングシンクから水が溢れ、床に広がっていたと当社社員から緊急時対策本部に連絡。漏えいした水は堰内に留まっており、外部への流出はない。サンプリング元弁を閉め、サンプリングシンクからの水の溢れは止った。漏えい範囲は約 6m×6m×深さ 1mm。

#### <4. その他>

- ・2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
- ・2016/3/31～ 試験凍結において、ブライン(不凍液)循環設備の健全性の確認等ができたことから、凍結運転(第一段階:1～4号機の海側全面と山側の一部の凍結)を開始。
- ・12/3～ 陸側遮水壁山側の未凍結箇所7箇所のうち2箇所(1号機西側・4号機西側の一部)について、凍結運転(第二段階)を開始。
- ・2017/3/3～ 陸側遮水壁山側の未凍結箇所5箇所のうち4箇所(1号機北側・1号機西側・3号機西側・4号機南側の一部)について、凍結運転を開始。
- ・2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽の解体作業を開始。
- ・2017/3/28～ 汚染水処理を貯留した実績のない地下貯水槽 No.5について、貯留タンク設置場所の拡張を目的に、解体・撤去作業を開始。
- ・2017/6/12 雑固体廃棄物焼却設備については、年次点検のため2/12より設備を停止させ、信頼性向上対策を実施していたが、焼却運転を開始。

#### 【3号機燃料取り出し用カバー等設置作業】

- ・2017/1/17～ 使用済燃料プールにて保管している燃料取り出しによる福島第一原子力発電所のリスク低減に向けて、燃料取り出し用カバー等設置作業開始。

#### 【サブドレン他水処理施設の状況】

- ・2015/9/3～ サブドレン他水処理施設運用開始。
- ・サブドレン他水処理施設一時貯水タンクEの分析結果[採取日 6/4]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、6/9 10:01～16:29 海洋への排水を実施。排水量 938m<sup>3</sup>。
- ・サブドレン他水処理施設一時貯水タンクFの分析結果[採取日 6/4]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、6/10 10:09～16:54 海洋への排水を実施。排水量 981m<sup>3</sup>。
- ・サブドレン他水処理施設一時貯水タンクGの分析結果[採取日 6/7]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、6/12 10:03～海洋への排水を実施。
- ・サブドレン他水処理施設一時貯水タンクAの分析結果[採取日 6/8]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、6/13 海洋への排水を実施予定。

#### 【地下水バイパスの状況】

- ・地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
- ・地下水バイパス一時貯留タンク分析結果(Gr1)の分析結果[採取日 5/31]について、運用目標値を満足していることを確認したことから、6/13 海洋への排水を実施予定。

#### 【1～3号機放水路の状況】

※1～3号機放水路については、1号機放水路上流側立坑および2号機放水路立坑において、セシウム 137 の濃度が上昇したことから定期的に水質調査を実施。

##### <最新のサンプリング実績>

- ・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### 【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4・H6エリア周辺、福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

- ・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### 【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<地下水観測孔・海水サンプリング実績>

- ・至近の測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

#### 【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

- ・地下貯水槽 No.2 の貯留水については、汚染水保有リスクを低減するため、2016/6/1 10:05 当該地下貯水槽から多核種除去設備への移送を開始。なお、当該地下貯水槽には、約 1,400m<sup>3</sup> の汚染水を貯留しているが、本移送においては、多核種除去設備での処理状況や受入タンク側の空き容量も考慮しながら、既設ポンプによる移送が可能な水位まで、断続的に移送を実施する予定。
- ・2016/3/1 に採取した地下貯水槽 No.1周辺の観測孔A11～17 の地下水を分析した結果、前回値(2/2 採取)の全ベータ放射能がND(ND値 22Bq/L)であったのに対し、最大で200Bq/Lに上昇していることを確認。なお、当該観測孔は3年前に地下貯水槽からの漏えいが確認された以降、NDだったが、全ベータ放射能の上昇が

確認されたことから、漏えいの可能性も含めて調査を実施していく。

<最新のサンプリング実績>

- 地下貯水槽周辺の観測孔全ベータ放射能が上昇した件、および地下貯水槽 i 南西側および北東側の漏えい検知孔水において全ベータ放射能が上昇した件について、6/9 に採取した水の全ベータ放射能分析結果は、至近の分析値と比較して有意な変動は確認されていない。引き続き、地下貯水槽および周辺の観測孔について監視を継続する。

以上